

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2018.4.20 Spring

No.
58

NEWS



瀬戸理事長を囲んで

奨学生が語る学生時代の夢、これからの目標

**大学での学び、経験で
自分の進む道をつかみました**



奨学生への 思いを胸に



Profile

(旧姓：高丸)1981年大阪生まれ。2007年大阪市立大学卒業。臨床研修を経て、2013年リハビリテーション科専門医を取得し、現在は大阪府内のリハビリテーション病院に勤務。2002年大学2年次よりヤマト福祉財団奨学生。

医師になって10年がたち、現在はリハビリテーション科医として脳血管疾患や脊髄損傷など様々な疾患・外傷により障がいが残った患者さんの診療をしています。私は生まれたときから両脚に麻痺があり、立ったり歩いたりするには装具が必要です。自分に障がいがあるからこそ、より患者さんに近い立場でお手伝いできればと診療に臨んできました。対象とする疾患が幅広く、学ぶべきことがたくさんありますが、様々な社会背景も含めて患者さん全体を診ることができのがりハビリテーション科の魅力です。患者さんが退院され、その後も自宅や職場で元気にされている様子を聞くと、大変やりがいを感じます。

大学2年生から6年生までの5年間、ヤマト福祉財団より奨学金をいただきました。小倉昌男さんが選考された最後の学生であり、初めての医学部生であったと後からうかがいました。仕事を通して、自立して生活し少しでも社会に貢献していくことが、奨学生に対する思いに応えることだと考えています。

私生活では、昨年、第2子となる長男が生まれました。すくすくと育ってくれている子どもたちですが、小さなことで悩んだり心配したりの毎日です。私が障がいをもって生まれ、両親はどれだけ将来を心配したことだろうか、自分が親になって初めて気づき、感謝の気持ちを新たにしました。育児休業を経て、4月からは職場に復帰する予定です。休業中も、共に働くスタッフから「先生、早く帰ってきてね」と声をかけてもらい、必要としてもらえることを大変うれしく思いました。

私は幸いなことに、周囲の理解やサポートに恵まれてきましたが、「障がいをもって働く女性医師」というロールモデルとなる人が身近にいれば、もっと心強かっただろうと思います。後輩の奨学生のみなさんがそれぞれの場で活躍され、道を切り開いていかれることを願っています。

CONTENTS

表紙写真 ヤマト銀座ビルに元奨学生の吉田翔さんと木戸奏江さん
においでいただき、瀬戸理事長と座談会を行いました

- 03 瀬戸理事長を囲んで
奨学生が語る学生時代の夢、これからの目標
大学での学び、経験で
自分の進む道をつかみました
- 09 平成30年度福祉助成金事業
助成金決定事業所一覧

- 10 平成30年度は全国から8団体が
ジャンプアップ助成金に選定されました。
- 12 助成先レポートVol.33
社会福祉法人さっぽろひかり福祉会 ひかり工房(北海道札幌市)
5年で目指す!店舗売上10倍計画。
- 14 この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
できないと決めつけないから、できることが増えていく。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

瀬戸理事長を
囲んで

奨学生が語る学生時代の夢、これからの目標
大学での学び、経験で
自分の進む道をつかみました

ヤマト福祉財団の奨学金を活用し、
大学を卒業し、社会人となったお二人に
瀬戸理事長がお話を伺いました。



平成27年度 奨学生
木戸 奏江 さん

大阪府立大学 地域保健学域 教育福祉学類を卒業後、車椅子の開発販売を行うWHILL株式会社に就職。現在、広報、マーケティング業務に携わっています



平成22年度 奨学生
吉田 翔(しょう)さん

国立佐賀大学医学部医学科を卒業後、研修医として国立病院機構 佐賀病院へ。4月からは長崎大学病院 耳鼻咽喉科の医師として勤務します

それぞれの経験を活かして お二人にしかできない仕事を

瀬戸 薫 理事長



難聴に悩む子どもと保護者を 医師として支えるため再度大学へ

——ヤマト福祉財団では、障がいを乗り越え、社会のために貢献したいと勉学に励む大学生に、月額5万円（返済不要）を助成しています。平成29年度は、12名を新たに選抜し奨学金を贈りましたが、全国からの応募総数は70名以上もありました。

「社会で活躍する奨学生たちの成長した姿をお伝えすることで、多くの方に助成の意義をご理解いただき、もっとたくさんのお学生を応援できるようになれば」。

今回お招きしたのは、平成22年度奨学生の吉田翔さんと、平成27年度の奨学生木戸奏江さん。お二人が大学に進学した目的、そこでなにを学び経験できたのか、そして社会人となったこれからの夢などについて、瀬戸理事長が伺いました。

瀬戸 薫理事長（以下：理事長） 今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私は先日、お二人の職場を訪問させていただきました。木戸さんと吉田さんは初対面です。まずは自己紹介からはじめましょうか。

吉田 翔さん（以下：敬称略） 佐賀県から来ました。僕は先天性両耳難聴で、いまも両耳に補聴器を付けています。ずっとデフバレー（聴覚障がい者のバレーボール）をやってきて、聴覚障がい者のオリンピックであるデフリンピックにも出場経験があります。大学は最初に、国立九州大学医学部で臨床検査技師の資格を取りました。卒業後、さらに佐賀大学の医学部に進んだのですが、このとき、ヤマト福祉財団の奨学金を活用させていただきました。2年間の研修医を経て、4月からは長崎大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師として勤務します。

理事長 いまもバレーボールを？

吉田 勉強が忙しくて。現在は時おり大学で学生の指導を行う程度です。

理事長 医者のお勉強は大変です。これからますますお忙しくなるでしょうからね。

木戸 奏江さん（以下：敬称略） 私は、10歳の時に進行性筋ジストロフィーと診断を受けました。健常者から徐々に障がい者になっていく中で、いろいろな悩みにぶつかり、障がい者に関することを広く学びたいと、大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類に進んだのです。その後、病気が進行し、20歳で車椅子を使うようになりました。そのため通学が困難になり、大学の近くに引っ越して暮らすための資金として活用させていただきました。昨年4月から、車椅子を開発販売するWHIT株式会社に働いています。



理事長 お二人は我々の人生の何倍も苦勞しながら大学に通われたわけですが、どのような目的を持って進学されたのですか？

吉田 最初の九州大学では、臨床検査技師の勉強をしていましたが、明確に自分の将来に対する夢、目標は持っていなかったですね。

理事長 バレーボールばかりしていた？

吉田 はい(笑)。それが4年生のときに、難聴の子どものための保護者に向けた講演会があり、私に講演の依頼がありました。そこで保護者から、いろいろな質問を受けたのです。どうやって話せるようになったのか、どんな勉強法をしてきたのか、耳が聞こえない仲間とのサポートのことなど質問は止まりません。保護者が子どもの将来に不安を抱えていることが良くわかって、そのときから、私に医学知識があれば、よりの確なアドバイスを打てるのにと考えはじめたのです。

理事長 それで医者になろうと。

吉田 医師として耳が聞こえない人と保護者のお役に立てるようになると決心し、二浪の末、改めて大学に入ることができました。

「車椅子の人」への違和感

海外研修での人生を変える気づき

理事長 木戸さんはいかがですか？

木戸 私も最初は、障がいについて広く学びたいというだけで、どの点を掘り下げたいとか、どう活かしたいとかは、まだ考えていませんでした。ただ在学中に病気が進行し、車椅子を使いはじめた。さらに障がいに対する疑問や違和感を持つことが増え、それを紐解くなにかを得たいと強く思いはじめました。私が大きく変わったきっかけは、アメリカでの研修体験です。そこから、自分がこれからどういうス

タンスで生きていくのか、ヒントを得ることができました。

理事長 研修先はボストンでしたね。

木戸 はい。アジア系アメリカ人のスタディグループでアイデンティティについて学んだことが大きかったです。車椅子に乗ってから、初対面の方が「車椅子の人」というイメージを通して私に接してくること、弱者として見られていることに違和感を抱いていました。スタディグループで、この違和感の正体がわかったのです。人はシチュエーションに合わせて、会社員、学生、女性、恋人、子ども、親など様々な「自分」を持っていきます。でも車椅子に乗り始めてから、どんなときも私は障がい者であり、障がい者以外の「自分」が失われていくような喪失感がありました。アメリカでは、障がい者を他のマイノリティの方たちと同じそれぞれの個性、能力として捉えます。民族やルーツにバラエティがあり、多くの人がマイノリティな一面を持っていることの表れでしょうか。車椅子に乗った障がい者という一元的な見方ではなく、木戸と言う個人にながでできるのか、できないのか、できるようにするにはどんなサポートが必要なのかを考えさせられました。アメリカでの経験で、車椅子ユーザーが「いつも障がい者でいること」に違和感を持った私は、いかにして車椅子ユーザーが障がい者イメージから脱していくかに興味を持つようになったのです。

吉田 世界を見ると考え方が変わる、それは凄く共感できます。アメリカと日本はかなり考え方が違ってきますよね。ボストンには、大学の留学制度を利用して行ったのですか？

木戸 いえ、違います。大学とは関係ない短期フィールドワークの研修プログラムを自分で

探して申し込みました。ボストンは、アメリカの中でもバリアフリーが発展している都市で、交通機関などにも細かな配慮が行き届いているんです。

理事長 ボストンには何度も行っているけれど、気がつかなかった。視点が違うんですね。

吉田 僕は一昨年、デフリンピック出場権をかけた世界選手権でワシントンDCを訪れたとき、ある大学を見学したのですが、そこは手話などを含めた聴覚障がいについて学ぶ大学なんです。日本からも学びにきている学生がいました。テレビで講義を視聴しましたが、すべて手話で行われ、字幕も出してくれる、こんな大学もあるんだとびっくりしました。

木戸 アメリカはいろいろと進んでいますね。私は、この海外での体験で私自身の障がいへの考え方が大きく変わり、これからは車椅子に焦点を当てて勉強していこうと決めたのです。私は、自転車に乗る感覚で車椅子を利用してはいますが、周りはそうは見えていません。車椅子



難聴は見た目以上に大変 専門医として寄り添いたい

吉田 翔 さん

「まったく歩けない障がい者、そんな世の中の車椅子への一面的なイメージを変え、移動体としての車椅子の可能性を広げていけるような仕事に就きたい」と考えるようになりました。

理事長 大学でいろいろなことを学び、経験していくうちに、お二人とも漠然としていた目的や夢が、具体的に変わっていったんですね。

どうサポートしてもらうと良いかそれを発信するのも僕らの役割

理事長 お二人が大学に通い、勉強する上で苦労してきたことはありませんか？

吉田 講義が聞き取りづらく、どうカバーしていくかが大変でした。はつきり聞こえなかった点は、幾度も教科書を読み直し、とにかく単位を落とさないように猛勉強しました。留年などしている余裕はありませんし、最新の医療知識を学び、医師の国家試験にパスしなければなりませんから。

理事長 講義の際に、ノートを取ってもらうなど配慮をしてもらわなかったのですか？

吉田 学生時代は、自分が努力すれば良いのだと考えていて、周りになにかお願いしたりはしませんでした。しかし、インターンとなり、患者さんの命にかかわる仕事に就いたとき、聞こえなかったではすまされないのだと気づきました。カンファレンスでは、聞こえなかった点を、あとで同期の仲間に確認させてもらうようにしましたが、もどかしかったです。

理事長 同じことを何度も聞き直すと、なんだこの人は？となってしまう。

吉田 はい。私の場合、障がいが見た目ではわかりませんから。私が4月から勤める長崎大学では、国立大学として合理的配慮を進めていこうと、マイクのメーカーが、カンファレンス



世の中の車椅子へのイメージを変える それが私の仕事です

木戸 奏江 さん

の際、私の補聴器にだけ大きく音が届くシステムをテストしてくれています。オン、オフの操作は、補聴器のボタンで操作できます。しかし、手術中は触ることはできませんし、マスクもしているので普段よりも聞き取りづらくありません。どうすれば聞こえやすくできるか、胸に付けるペンマイクタイプの集音機ならどうかなど、試行錯誤をしてくれています。こうしてもらえたら、動きやすい、聞こえやすい、そういうことを発信していくのも、僕らの大切な役目の一つなのかもしれません。

**自転車やクルマ感覚で楽しむ
そんな新しい車椅子を発信**

木戸 多くの歩行に困難を持つ方々は、できることなら車椅子に乗りたくないと考えます。私も「車椅子に乗る」という決心をするまで葛藤がありましたし、覚悟が必要でした。車椅子に乗りたくない理由は、街中の段差など物理的なバリアと、車椅子に乗っている自分の

姿を人に見られたくないといった心理的バリアの二つの側面があります。物理的バリアに対する話題は近年さまざまなか所で取り上げられています。公共交通機関のバリアフリー化や、車椅子の性能向上などですね。しかし、心理的なバリアに関しては、あまりまだ注目されていないように思います。

理事長 WHILLという会社を初めて知ったときどう思いましたか？

木戸 WHILLの製品が最初に世に出たとき、あえて「車椅子」と呼ばず、「パーソナルモビリティ」であると表現したことは、当時大学生だった私にとって大きな希望に思えました。今後人生をともにしていくものが、障がい者を象徴する「車椅子」ではなく、「パーソナルモビリティ」として未来を象徴する乗り物になると感じたからです。それは同時に私が失っていた障がい者以外の「自分」を取り戻すことを意味していました。今後、製品自体が社会の中でどう位置付けられていくかが重要だと感じ、私もWHILLが今後発信していくメッセージに関わりたいと思います、この会社を選びました。

理事長 使い勝手の方はどうですか？

木戸 当社の車椅子は、デザイン性はもちろん機能もこれまでの車椅子とは違っています。パワーもあり、小まわりも効きますから、今まで無理だとあきらめていた場所やお店にも気軽に出かけることができます。お客様にインタビューをすることがよくありますが、WHILLに乗ることによって、前向きな気持ちになった、外出する意欲が湧いた、といったお声を聞きするのはとても嬉しいです。障がい者やお年寄りが仕方なく乗る、不慣れた乗り物ではなく、障がいの有無に関係なく誰もが乗りたくなるパーソナルモビリティ、それが当社の目指

す車椅子のイメージです。理事長は、当社製品「MITHI」を試乗されていかがでしたか？

理事長 力を入れなくてもスッと動いてくれる。乗り心地は快適そのもので、これは凄いものができたなと思いましたよ。

耳鼻科の専門医として腕を磨き いつの日か故郷で開業したい

理事長 吉田さんは、小児科が耳鼻科で迷っていたけれど、耳鼻科に進む決心をした。

吉田 自分のやれること、やりたいことを見つめ直し、耳鼻科を選びました。小児科の病気はジャンルが広く、患者さんも多岐にわたります。でも耳鼻科に勤めれば、一人でも多く難聴に悩む方やご家族と向き合うことができ、僕のこれまでの経験を活かして治療にあたることができると思いました。

理事長 体験からお話しされると説得力が違いますね。

吉田 たとえば、私はいま二つ補聴器を付けていますが、補聴器は子どもの頃から片方の耳だけではなく両耳に付けた方が良いのです。付けていないと神経が衰えてしまいます。でも私が両方に付けたのは、研修医として長崎大学病院に入ったとき、耳鼻科の専門医に勧められたからです。早くそうしておけば良かったと後悔しています。これも私の経験からお話しできることの一つです。

理事長 木戸さんもいまの仕事にご自身の経験を活かせることはありませんか？

木戸 社内で当社の車椅子を利用しているのは私だけなんです。そこでいろいろなタイプに試乗し、率直な感想を会社に伝えています。

理事長 木戸さんは、広報とマーケティング担当でしたね。

木戸 マーケティングは、もつと勉強しなければなりません。ホームページやPR誌の編集にも携わっていますので、ユーザーとしての視点もうまく活かしていきたいと思っています。

理事長 ユーザーの意見はなによりも強い。きつと開発にもプラスになると思いますし、これからが楽しみですね。吉田さんは、4月から働く長崎大学病院で、どのような医師になりたいとか、目標はありますか？

吉田 長崎大学病院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科には、日本でも有数の先生方がいらっしやいます。まずは多くを吸収し、専門医としてなんでも一人でやれるようになることが当面の目標です。ここで腕を磨き、8年・9年かかるかもしれないですが、やがては佐賀県に戻りたいと思っています。佐賀県にも優秀な耳鼻科の医師はいらっしやいますが、県全体で難聴や発達障害に関わる医師は少ないのです。

理事長 故郷に恩返しをしたいと。

吉田 難聴は、見た目よりもつらい障がいです。本人と保護者の両方に寄り添い治療しながら、佐賀県での難聴者への理解を深めていきたい。そして、いつか開業もできたらと夢を抱いています。

理事長 当財団では、ネパール小児白内障治療プロジェクトを支援しています。吉田さんは、佐賀県だけではなく九州全土に、アジア全域へと難聴への理解を広げてほしいですね。

吉田 そうなれたらと思います。

奨学生の中から、ヤマト福祉財団 小倉昌男賞受賞者が出てほしい

理事長 私は小さいころ小児麻痺で、両親がリハビリを続けてくれたおかげで、いまマラソンなども楽しむことができます。お二人は、ご両親や周りの方にどのような気持ちを抱いていますか？

抱えていますか？

吉田 いま僕がこうしてしゃべることができるのは、両親が他の人と同じような生活ができるようにさせたいと、幼い頃に根気よく訓練してくれたからです。両親には言葉で表現できないくらい感謝しています。

木戸 私の病気は徐々に進行するもので、中学生ぐらいまではちょっと足の悪い子どもぐらいいいしか両親は考えていませんでした。ですから私を障がい者としてあまり見てはいなくて、大学に行きたい、一人暮らしをしたい、海外留学がしたいと話しても、いつも快く送り出してくれています。放任主義というかそんな感じなのが逆に助かっていますね。

理事長 心のうちでは心配だけど、やりたいことを存分にやらせてあげたいのですよ。

木戸 目に見えない所でしっかりと支えてくれている、それは私も強く感じています。

理事長 感謝の気持ちを心に刻んで、これからも楽しく仕事をしてください。そんなお二人の姿が、このあとに続く奨学生たちの良い励みになるはずですよ。

吉田 ありがとうございます。

理事長 お二人には、他の方にはない当事者としての経験があります。それを活かして、吉田さん、木戸さんにしかできない仕事をしていただきたいと思います。私たちは、毎年、障がいのある方の雇用の拡大、労働環境の向上、高い給料の支給など、障がい者の自立支援に著しく貢献した方を選考し、『ヤマト福祉財団小倉昌男賞』をお贈りしています。いつかは奨学生の中から受賞者が誕生したら素晴らしいなと期待しています。

吉田、木戸 それはハードルが高い(笑)。でも、目標に向かって頑張り続けたいと思います。





看護師との意思の疎通もスムーズに、研修医として治療にあたる吉田さん

吉田 翔さんの研修先 「国立病院機構 佐賀病院」へ

吉田さんは、国立佐賀大学医学部医学科を卒業後、国立病院機構 佐賀病院をベースに、内科、外科、救急、放射線科、皮膚科などを研修。耳鼻科は長崎大学病院へ、さらに地域医療として離島にも赴いています。お訪ねした佐賀病院では、島 正義院長を交えてお話を伺いました。

島院長は、吉田さんが耳鼻科に進む決断をしたことを喜んでいます。「我々は、患者さんやご家族の気持ちを受け取り、寄り添った治療を行わなければなりません。その点、耳鼻科なら彼はだれよりも患者さんの気持ちを理解できるでしょう」。その一方で「医者は聞き間違いが大きなミスになりますから」と難聴のハンディをどう乗り越えていくかを心配しています。「カンファレンスや電話などでは聞き取りづらいことも。その辺はスタッフに理解してもらわなければなりませんね」と吉田さん。「君の頑張りをずっと見守っているよ」との島院長の言葉に「成長の度合いをぜひチェックしてください」と吉田さんは答えていました。



同じ高校出身の吉田君は息子のようだと言われ島院長(左)



国立病院機構 佐賀病院

国立病院機構 佐賀病院(佐賀県佐賀市)

○診療科…内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、乳腺外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科(入院292床) ※救急告示病院、理学療法施設

木戸さんの勤める「WHILL株式会社」へ

木戸さんが車椅子の開発販売を行うWHILL株式会社に勤めてそろそろ1年が経とうとしています。木戸さんと会社の最初の出会いは、インターンシップ。そこで木戸さんが見たのは“すべての人の移動を楽しく、スマートにするパーソナルモビリティ”=WHILLでした。この車椅子で、社会が持つ車椅子への見方を変えていきたい。そんな夢を抱き、現在、広報とマーケティングで、WHILLの魅力を発信しています。

「人それぞれに車椅子に求めるニーズは異なります。たとえば、私は周りの人と同じ立って歩く視線で移動したいので高い座席が好みます。でも室内で多用する方は、低い座席の方が椅子に座っている感覚になれるので良いと言います。そんなユーザーの声を企画・開発に届けることもマーケティングの大切な仕事です。」

「彼女は弊社で唯一のWHILLユーザーとして、他にはない知見で私たちに刺激してくれるんですよ」と話すのは、同じマーケティング担当の辻阪 小百合さん。

「会社のみんなが、私の病気のことも良く理解してくれて、職場に休憩できるベッドも導入してくれました。私は、本当に理想的な職場で働けていると思います」。そう話す木戸さんの笑顔は、生き生きとしています。



1ユーザーとしての意見をしっかりと発信できるのが彼女の強みと辻阪さん(左)



木戸さんが勤務する神奈川県の日本本社



「車椅子って格好いい。WHILLならそう言ってもらえそうだね」と試乗の感想を話す瀬戸理事長

WHILL株式会社(日本本社/神奈川県横浜市)

○設立…2012年5月 ○事業内容…パーソナルモビリティの生産・販売
○従業員数…約60名(日本、アメリカ、台湾) ※2018年2月現在

平成30年度福祉助成金事業 助成金決定事業所一覧

(助成金額合計:7,980万円)



I. 障がい者給料増額支援助成金 決定一覧

1. ジャンプアップ助成金 (定額500万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	助成額
北海道旭川市	就労継続支援事業所チーム紅蓮	溶剤、UVプリンター、刺繍ミシン、自動プレス機の購入資金	500
北海道北斗市	はあと	作業棟エレベーター・エアコン新設工事資金	500
北海道余市郡	特定非営利活動法人余市はまなす	既存建物の食品工場の拡大・改装、機器導入資金	500
岩手県紫波郡	障害者支援施設新生園	オンデマンド印刷機、丁合機、手差しミシン機の購入資金	500
石川県鳳珠郡	日本海倶楽部ザ・ファーム	レトルト食品製造機器購入資金(小型高温高圧調理機等)	500
大阪府堺市堺区	ともにーしゅうりんじ	おしぼり自動包装機購入資金	500
島根県松江市	ピストロ庵タンドール	POS連動タッチパネルオーダーシステムおよび両替機導入資金	500
大分県津久見市	精神障害者就労支援センター通所授産施設とよみ園	保冷剤製造機購入資金	500

2. ステップアップ助成金 (上限額200万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	助成額
北海道千歳市	ハートフルネットワークほほえみ	配達用軽ワゴン車両購入資金	168
北海道旭川市	旭川福祉園	ビニールハウス・暖房設備・灌水設備・ハウス自動開閉装置の購入・電気工事資金	200
北海道札幌市北区	札幌チャレンジド	Webアクセシビリティ検査用パソコン、ソフトの購入資金	75
岩手県岩手郡	雫石町福祉作業所かし和の郷	菜種貯蔵冷蔵コンテナ購入資金	200
埼玉県さいたま市桜区	障害者支援施設しびらき	イチゴのクラウン(根茎部分)冷却設備の設置・整備資金	200
千葉県茂原市	カレンズ	クッキー用ミキサー・ラベラー・電動シーラー購入資金	150
山梨県甲府市	就労支援事業所かしのみNeO	ブラストチラー&ショックフリーザー購入資金	200
東京都中野区	コロニー中野	ゲームン製品を内製化するための機器一式の購入設置資金	200
長野県伊那市	アンサンブル伊那第II	栗皮むき機、管理機の購入およびブドウ灌水設備資金	91
大阪府河内長野市	ワークメイト聖徳園	ロールケーキ冷凍用のブラストチラー&ショックフリーザー購入資金	185
大阪府茨木市	アクアクララ北大阪	宛名プリンターとバリアブルデータ印刷システムの購入資金	181
兵庫県姫路市	ラーフ・ウッド	最新のトラクター購入資金	200
島根県出雲市	つわぶきネット	菌床しいたけ栽培コンテナおよび菌床運搬車購入資金	200
長崎県五島市	五島あすなろ作業所	麵研磨機・シュリンク機購入資金	167
長崎県長崎市	そよ風の里	焼き菓子用スチームコンベクションオープン購入および厨房改修工事資金	100
長崎県佐世保市	チームハーベストキッチン	干し野菜を洗浄、加熱、乾燥させるための機械、機器購入資金	200
大分県大分市	ペパーミント	ドウコンディショナー購入資金	129
大分県別府市	多機能べっが優ゆう作業所	クッキー製造機器の購入資金	200

II. 障がい者福祉助成金 決定一覧 (上限額100万円)

単位(万円)

所在地	申請団体・事業所名	助成対象	申請区分	助成額
北海道苫小牧市	CARE CENTERアルドール	ピアヘルパー養成講座 福祉的就労におけるステップアップ事業	研修	70
北海道札幌市厚別区	一般社団法人ジャスミン権利擁護センター	成年後見制度の現状と今後の普及課題の調査事業	調査	33
宮城県仙台市青葉区	TOHOKU STORMERS	第1回ウィルチェアラグビー福島CUP	スポーツ	90
埼玉県新座市	就労継続支援A型SAIFUKU	やさしく読める「LLブック」普及のための出版事業	出版	100
東京都大田区	一般社団法人日本デフバレーボール協会	日本デフバレーボール半世紀の歩み～聴覚障害者バレーボールの挑戦～出版事業	出版	100
東京都港区	一般社団法人日本ボッチャ協会	第20回日本ボッチャ選手権大会	スポーツ	100
長野県松本市	乳ガン患者会「桜むね」	乳房補正パッド作成技術を習得する研修会	研修	100
愛知県名古屋港区	社会福祉法人ふれ愛名古屋	医療的ケア児者の地域生活シンポジウム&重症児者多機能拠点の見学会	講演会	70
愛知県名古屋市中区	小規模作業所ドリーム伏見	脳卒中障害者と家族をたすける暮らしのハンドブック作成事業	出版	71
大阪府東大阪市	クリエイティブハウス「バンジーⅢ」	私の歴史～知的障害者が語る人生の記録～出版事業	出版	100
宮城県宮崎市	障がい福祉サービス事業所はながしま	重症心身障がい児(者)の望ましい支援や制度の構築のための調査事業	調査	100

平成30年度は全国から8団体が ジャンプアップ助成金に選定されました。

30年度 助成金事業

福祉施設が「経済力」を兼ね備えることが、障がい者の真の自立には不可欠です。そのお手伝いとして、すでに障がい者の給料アップに実績がある事業所に対し、さらなる飛躍のための事業資金(500万円)を助成。壁を打ち破ろうとする方々を応援します。

精神障害者就労支援センター・通所授産施設とよみ園（大分県津久見市）

就労継続B型

保冷剤製造機の購入

●平成28年度平均給料 21,967円(45人) ●平成31年度目標給料 37,963円(45人)



製造力アップは喫緊の課題

2000年開設のとよみ園は、当初から自主製品の重要性を認識し、地元企業の指導を受けて、保冷剤の製造販売を手がけています。作業の柱は、三つ。一つは海苔・醤油などの袋詰めやラベル貼りなどの委託作業、二つ目は柑橘農家やJAニラ作業施設外就労、三つ目はとよみ園が開所の年から手がけている、とよみ園ブランドの「中型・大型保冷剤の製造・販売」です。

保冷剤製造は大分県漁協を皮切りに積極的な営業を仕掛け、近畿以西690社、全国ネット販売、卸売2社と取引を行い、利用者給料の50%を稼ぎ出しています。今後も販路拡大は望めるものの、繁忙期には2台の製造機はフル稼働状態。注文をお断りしなければならない状況も予想されました。

そこで顧客ニーズをより満たすことのできるよう新鋭機1台を追加購入して3台体制にすることにしました。導入後は7月の稼働を目指します。



ともに一しゅうりんじ（大阪府堺市）

就労継続B型

おしぼり自動包装機の購入

●平成28年度平均給料 29,660円(13人) ●平成31年度目標給料 40,897円(13人)



触法障がい者の社会参加と経済的自立を支援する

おしぼりのレンタル業を営む企業が社会適応訓練所の機能を備えていた経緯から、2011年にNPO法人として設立された南大阪自立支援センター「ともに一しゅうりんじ」は、おしぼりとタオルのクリーニングに的を絞り、利用者の「生活の質」の向上を目指しています。触法障がい者にも、積極的に門戸を開き、給料についても利用者の能力と成果に見合った額を支払い、障害基礎年金と給料で、国が定める最低生活費を上回ることが目標です。

しかし、現在使用しているおしぼり包装機では、毎時700本程度が限界。さまざまな障がい特性にも対応のうえ給料アップを図るには、安全で処理速度が速く、単価の高い厚手の「高級おしぼり」も包装できる新機種の増設が必要です。4台を導入した場合、月上最大252万円増を見積り、導入から3年で平均月額給料を大きくアップさせることを目論んでいます。



障害者支援施設 新生園 (岩手県紫波郡矢巾町) **就労継続B型**

オンデマンド印刷機・丁合機・手差しミシン機の購入

- 平成28年度平均給料 37,486円(9人)
- 平成31年度目標給料 58,500円(16人)

機材整備で働きやすさと内製化率アップ!



老朽化した印刷機のリプレースのために、助成に応募した新生園。近隣の学校や官公庁等からさまざまな印刷物を受注しています。しかし機械の老朽化により事業運営に黄信号が灯りました。丁合機は部品の生産が終了し修理は不可能。印刷機の保守点検料、カウンター料も高額です。これらを踏まえて新機種を選定し内製化を図ることにしました。売上利益約160万円の上昇を見込み、給料増額につなげる計画です。

日本海倶楽部ザ・ファーム (石川県鳳珠郡能登町) **就労継続B型**

小型高温高圧調理機・ホットパック等の購入

- 平成28年度平均給料 30,343円(8人)
- 平成31年度目標給料 41,667円(15人)

レトルト食品開発で「農福+商」の連携へ



3haの耕作放棄地を購入し、石川県でカボチャやブドウといった作物の生産販売を主力とする同事業所。しかし、降雪などの影響もあって農閑期が長く、一年を通じて作業量と収入の安定化を図ることが大きな課題でした。

そこで立案されたのが6次産業化へのシフトです。具体的にはレトルト食品「かぼちゃスープ」の開発を考えており、その製造に必要な生産設備の導入資金の一部に助成を活用します。

就労継続支援事業所 チーム紅蓮 (北海道旭川市) **就労継続A型**

刺繍ミシン・UVプリンター・自動プレス機等の購入

- 平成28年度平均給料 123,943円(5人)
- 平成31年度目標給料 134,524円(7人)

既存事業の領域拡大でニーズに対応



「障がい当事者による、障がい者の自立就労サポート」を掲げるチーム紅蓮は、旭川市で多岐にわたる「地域の共創事業」を展開しています。特にものづくりに関わる分野では、プリントTシャツや応援幕などのデザイン製造を手がけています。現在、売上・給料の増額を目的とする事業の強化拡大を進めており、新たに応援幕の刺繍加工や屋外利用可能なプリント事業への進出を決めました。助成は導入機器の整備に充てます。

ビストロ庵タンドール (島根県松江市) **就労継続A型**

POS連動タッチパネルオーダーシステム・釣銭機の導入

- 平成28年度平均給料 102,158円(12人)
- 平成31年度目標給料 122,222円(15人)

オーダーのIT化で利益率改善を目指す



ビストロ庵タンドールは、JR松江駅近くに社会福祉法人ふらつが開いた洋風レストランです。5年廃業率90%とも言われる飲食業において、節目となる5年を乗り越えましたが、売上は前年減の見通しです。この苦境を打開する策としてIT活用のセルフオーダーシステムの導入に踏み切ります。お客様のオーダーストレスの低減、スタッフ業務の効率化、POSデータの分析で客単価の向上、の一石三鳥を狙います。

特定非営利活動法人 余市はまなす (北海道余市郡余市町) **就労継続B型**

食品工場の増築改装・厨房設備の整備費用

- 平成28年度平均給料 37,867円(17人)
- 平成31年度目標給料 37,500円(20人)

事業の軸足転換で利用者の高齢化と増員に対応



利用者の高齢化・重症化で作物栽培の作業が徐々に困難となる状況で、余市はまなすが見出した光明がアップルパイの製造です。その美味しさとマーガリン・添加物不使用が評判を呼び、2013年ごろから生産量が飛躍。今年度は約1万個を販売する見込みです。そこで、手狭ゆえ作業・保管スペースはもちろん新製品開発などが難しくなっていた食品工場の増床に踏み切ります。生産能力は一気に2倍になる予定です。

はあと (北海道北斗市) **就労継続B型**

作業棟のエレベーター・工場内のエアコン設置

- 平成28年度平均給料 20,059円(28人)
- 平成31年度目標給料 40,476円(35人)

働きやすい環境整備で事業拡大へ



函館市内ホテルから出るタオルなどのクリーニング事業が好調な「はあと」。北海道新幹線の開通もあり、受注量は4tトラック2台分に増加する一方で、作業環境に問題が生じてきました。夏場は工場の室温が40℃以上になること。2階建て中古住宅を利用した作業棟では狭い階段での搬入が重労働になっていることです。助成を活用して、利用者の健康管理と生産性の向上を図り、給料の倍増を狙います。

5年で目指す!店舗売上10倍計画。

さっぽろひかり福祉会は、理解ある近隣町内会が後援会を務める全国でも珍しい社会福祉法人です。2015年度には、パンの売上年間8600万円、うち店舗部門が1600万円となり、パン好きも唸る、美味しいパンを武器に順調に伸ばしてきましたが、その見通しに暗雲がかかり始めていました。

Data

社会福祉法人さっぽろひかり福祉会
ひかり工房
北海道札幌市



「最初に納品された石窯オーブンは、土砂降りの中、降ろされて。600万円もする高価なものなのに…」
常務理事の小畑友希さんらが、心待ちにしてきた厨房機器は納品の不手際で雨ざらしに。結局交換となり、昨夏の予定だった導入が完了したのは12月です。同時に購入したスチームコンベクションと合わせて投資額はおよそ1300万円。当財団の助成を利用して導入しました。

仮に助成申請に落選しても、福祉会の評議員に「借金をお願いします」と言ってもりだったと小畑さん。そこにはそれだけの覚悟がありました。

2003年の開業時、560万円だった年間売上は地道な営業活動によって、右肩上がりに増加していきました。そして2015年度は8600万円を達成。この間に月給は7万5000円に、雇用型(A型)事業所「大福屋ひかり」も立ち上げて、障がい者雇用も30人に至りました。しかし、ほころびが見えたのはその翌年のこと。前年度の売上と比較をしていると、下期をど

設備投資は覚悟の表れ

「足踏みしていたら取り残される」
だからといって直販ではない以上、自分たちができることは限られています。そんな中で浮かんだアイデアが石窯オーブンの導入でした。商品であるパンには十分な好評を得ていましたが、「これまでと違った取り組みをしないと、マネリ化して先細りする」とそんな怖さが、差別化へ向けた新たな挑戦を決意させたのです。

「石窯オーブンの良さは、自分たちのパン作りの師匠である鈴木伸一さんから聞いていました」と語るのは前ひかり工房施設長の高井賢二さん。外はカリッと、中はしっとり。食べ比べてみれ

うがなんぼでも前年度割れすることが見込まれたのです。
振り返ってみれば、売上増には都度さまざま要因がありました。たとえば「卸先となる福祉ショップがオープンしたとか、リニューアルしたとか。とくに移転したときには一気に売上が伸びました」しかし、その後は売上が徐々に落ち込み、その影響が2016年度の売上にも響いていたのです。





①整備した3段式の石窯オープン。釜の内部は天井も側面も床も織ぎ目のないセラミックで造られ、皮はぱりっと、中はしっとり焼ける。写真は利用者から職員として雇用された山岡さん ②店に並ぶ焼きたてのパン ③宮阪委員長が利用者さんに教えていただきながら、パン製造に挑戦 ④石窯と同じく助成で整備したコンベクションは、デニッシュ、クッキー類に使用 ⑤「(私の頭に計画が)ストーンと何か降りて来たんですね」と話す小畑友希さん。「10倍というのは売上だけでなく、本当に法人全体をひっくり返した意味での10倍なんです」 ⑥「給料が上がれば職場が安定してくると、みなさんいろんな変化があって、職場結婚されたり…」あさかけ生活支援センター施設長の高井賢二さん ⑦井上秀勝町会長、今もさっぽろひかり福祉会後援会の会長としてご協力いただいている ⑧工房に併設された店舗 ⑨成形、具をのせたらオープン

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 28

ヤマト運輸労働組合
札幌支部執行委員長
宮阪 和之 さん



一筋縄ではいかぬパン作り 一生懸命の指導に感謝

初めてパンをこねて分かりましたが、やっぱり職人技ですよ。すぐにできるものじゃない、これまでのご苦労がよく分かりました。

できないのは自分なのに、「私の教え方が駄目だったんですね」と、指導してくれた方が言うてくださって本当に申し訳なかった。反面、お話することや人との関わりが、みなさんすごく好きなんだと実感できたことはとても良かったです。

明るい職場で、みなさん元気に働いていることを、今度は自分からヤマトの社員に伝えて、賛助会員や夏のカンパへの応援を増やしていきたい。そんな気持ちを強くしました。



「より売れ、より愛される店へ」
実際、石窯オープンの導入に伴い、東京都内で店を構える著名なシエフ、ムッシュイワンの小倉孝樹さんを招いて研修を実施し、仕事ぶりやパン生地に貴重な指摘をいただいたそうです。
小畑さんも「石窯はパンが変わっただけではなく、人との出会いや次に進歩するきっかけ

ば、違いがはつきりと分かります。また商品価格の見直しはほとんど進んでおらず、利用者の給料アップにもつながっていませんが、いずれ新商品の開発に合わせて、この付加価値分をお客様の納得できる形で価格に反映させていきたいと考えています。

さらに高井さんはこうも語ります。「一流の機械を使えば、それに関わる人が育つんじゃないか。そついう願いもありました」

「たかさんの人が集まってくる、地域の人の拠り所にこのお店をしていきたい。困ったことがあれば話を伺う相談機能もここにはあります。だから、子どもからお年寄りまで、いろんな人で賑わうお店にしたいんです」と小畑さん。よそに出店して店舗拡大するのではなく、さらに深く地域に根ざす道を選んだひかり工房。「5年ぐらいで達成したいね」そつ意気込む小畑さんたちです。

もつなぐ」と実感しています。
導入後、ひかり工房では小畑さんの発案で「店舗売上10倍計画」を新たにスタートさせました。まずは駐車場を拡張して、大きな看板を設置するところから進める予定です。いずれはカフェを併設して、店舗だけで1億円を売上げた——。でつかい野望ですが、10倍を目指すのは売上だけではありません。

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

できないと決めつけないから、 できることが増えていく。

神奈川県横浜市の港北区。東急電鉄 東横線の大倉山駅から歩いて約2分の住宅街に、NPO法人いろえんぴつ心理福祉コミュニティズ「いろえんぴつ」はあります。
7〜8人のメイトさんたちが職員と共に、徒歩でクロネコDM便を配達しています。

NPO法人いろえんぴつ心理福祉コミュニティズ「いろえんぴつ」は、2009年9月からクロネコメール便（後にDM便）事業を開始しまし

た。きっかけはいろえんぴつの河野芳子理事が、幼馴染みから紹介されたこと。室内作業の多い利用者さんのために、屋外でできる仕事を探

していた時期でした。これなら外を歩くことで運動になり、気分転換もできると考えたそうです。

車椅子でも行ける
平坦なエリアを希望

「いろえんぴつ」のある横浜市の港

北区は起伏があり、坂の多い地域です。河野理事は、車椅子の利用者さんがいることを考えて、起伏のない平らなエリアを担当させてほしいと、ヤマト運輸に相談。今の配達地域が選ばれました。
天候が良い、冊数が少ない、職員の数に足りているなどの条件が揃うと、時々、車椅子の利用者さんが配

知ってほつから 町コネクション

配達を始めた頃、町の人から「何をしているの?」とたびたび聞かれたそうです。これは私たちのことを話す、とてもいいきっかけになると思った」と河野理事。

ある時、施設の利用者さんが路上で倒れたことがありました。すぐ近く、近所の方がいろえんぴつへ電話をかけてきてくれたそうです。「もし



▲配達時、車や人通りの多い商店街では、メイトさんと職員が列になって進みます。前から／今泉晃一さん、土屋里子さん、職員 東美奈子さん、武田裕輝さん、岩田照美さん、職員 黒田朱加さん



◀細い裏道もきちんと列を保って歩きます。

●神奈川主管支店 菊名センター
面積1,048km²/人口13,864人/世帯数7,468世帯

●NPO法人いろえんぴつ
心理福祉コミュニティズ「いろえんぴつ」
2009年からクロネコメール便（DM便）配達を開始。1日平均配達冊数、約100冊。他の活動は、アルミ缶詰め、パン・クッキー・味噌製造、販売など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」
参入施設数 322施設 従事者数 1,639人（2018年2月現在）
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団 DM便担当
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



▲商店街の中の歯科医院で「DM便です!」と声をかけて手渡す岩田照美さん。

「一人ひとりにカラーがあるから、できることやできないことを決めつけない」。これは「いろえんぴつ」のモットーです。

職員の黒田朱加さんは「本当にみんな個性的です。どんな時でもマイペースな人。大きな声で明るく話すのが好きな人。そんな各々の良さを

一人ひとりのカラーを生かして

かしたらそちらに通っている人ではありませんか」と。「DM便配達のおかげで、少しずつ地域の中にとけこんでいると感じました。すべての情報をオープンにして、これからも地域の人に知ってもらう機会を大切にしていきたい」と河野理事は話します。



▲「大切なものだから雨に濡れないように気をつける」と武田裕輝さん。バッグをきちんと傘の下に入れて歩きます。



▲「仕事だから、雨でも、どんなに重くても大丈夫」と今泉晃一さん。DM便の配達大好きです。

生かしてあげたい」。そして、「毎日見ていると、仕事を通して、小さなことでも少しずつ身につけています。DM便を渡すと、詳しく場所を説明しなくても、すぐにポストに向かって歩き始めたり、注意をしなくてもDM便を丁寧に扱ったり。できることが自信となっていくのを感じます」と語りました。

「いろえんぴつ」では、DM便配達



▲「ポストに引っかからないように気をつけながら、しっかりと奥まで入れます」。DM便を丁寧に投函する岩田照美さん。



▲「町を歩くのが好き。みんなといつも一緒に行けるのが嬉しい」と土屋里子さん。

だけではなく、「いろえんぴつ」の力での健康になっていきます」と話すのは、職員の東美奈子さん。「メンバーは

ベテランになるほど生き生きと輝いて

だけではない。いろいろな人と触れ合う機会を増やしています。

19歳から69歳までいるのですが、学校を卒業したばかりの若い人より、ベテランの方がぐんぐん歩くと、疲れを見せないんですよ」。

河野理事は「町の人やヤマト運輸のドライバーさんにきちんと挨拶できるようになっています。新しい職員にベテランのメンバーが配達先のことを教えているところなどを目撃すると、本当にこの事業を始めて良かったと思います」としみじみ語ります。

長く続けてほしい大切なパートナー

ヤマト運輸神奈川主管支店 大豆戸支店 長島将司支店長は、彼らは頼れる存在だと話します。「誤配もほとんどなく、安心して任せられる。これからもパートナーとしてずっと続けてほしいです」。

ヤマト運輸神奈川主管支店 サービスセンター 菅幸男センター長は「仕事に向かう気持ちがあつすけどと感じます。苦労もあつたと思いますが、自分たちで解決し、素晴らしい実績をあげている。今後も怪我なく安全な配達を最優先して、長く続けてほしい」と語りました。

いろいろな魅力と才能が人の色になる。そしてその色が集まると、新しい色が生まれていく。そんな想いを名前に込めた「いろえんぴつ」。今日もメイトさんの数だけ、カラフルな笑顔を街角に咲かせています。



◀前列左より「いろえんぴつ」武田裕輝さん、土屋里子さん、職員 東美奈子さん、河野芳子理事 後列左より職員 黒田朱加さん、岩田照美さん、今泉晃一さん、ヤマト運輸神奈川主管支店サービスセンター 菅幸男センター長、ヤマト運輸神奈川主管支店 大豆戸支店 長島将司支店長、ヤマト福祉財団関東支部 柏崎寿恵事務長

▶「いろえんぴつ」河野芳子理事(右)と職員の黒田朱加さん(左)。



(株)ワールドビジネスサポート/ワールドグループの特例子会社としてグループ内の一般事務、社員食堂、清掃、喫茶、商品物流などのほか「カフェFikaFika」を3店舗運営しています。従業員376名のうち障がいのある方は142名です(2018年2月現在)。



お店に出るのが楽しくて仕方ない吉野さん(左から2人目)。「みんなやさしくて、ずっとここで働きたい」と話します

明るい笑顔の頑張り屋さん 「うちの看板娘」

あこがれの接客業で頑張りたいと、人知れず努力を続ける吉野さん。「彼女はうちの看板娘。明るい笑い声がお店をパッと華やかにしてくれます」とスタッフみんなに愛されています。

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

カフェFikaFika 井草店は、もともと杉並区
の就労支援施設の中にあつた喫茶店でしたが、
10年前からワールドビジネスサポートが運営
他にも杉並区内に阿佐ヶ谷店、永福町店があ
り、3店舗でそれぞれ障がいのある方が5名ず
つ働いています。
吉野さんは、スワン工舎の頃から、接客の仕
事にあこがれていました。しかし、体力に自信の
ない吉野さんは、水の入ったコップ六つをお盆に
載せて持てません。そこで毎日、腕立て伏せを

毎日、腕立て伏せを続けています
「ワールドグループの特例子会社として立ち
上げたとき、障がいのある方が一般事務をはじ
めさまざまな仕事を、どの職場でも当たり前
のように働ける環境をつくらうと決めましたと
事業支援部の大柳節子さん。

接客業には、体力も必要 毎日、腕立て伏せを続けています



接客が大好きな吉野さん!
笑顔を絶やしません

スプーンやフォークも
丁寧に磨きます

吉野 美優 さん (株)ワールドビジネスサポート・カフェFikaFika井草店(平成29年6月13日入社)

「接客がとても楽しい!」と話す吉野さん。勤務時間は9:30~16:30。休日はショッピングや映画、カラオケへ。得意な曲は竹内まりやの「元気を出して」。



「障がい者や子育て中のママさんなど、それぞれのハンディも力を合わせることでプラスに転換できます」と事業支援部の大柳節子さん(右)と定着支援課の丸山直人さん

お店の名前FikaFika(フィーカフィーカ)は、スウェーデン語で「お茶を飲む・ゆっくりする・寛ぐ」という意味。そこには「みんなで一緒にゆっくりと成長していきたい」という思いも込められています。

「当初は、仕事をなかなか覚えられず苦労していましたが、一度覚えたら次は間違えません。接客ではメニューごとに異なる、料理の種類と提供の順番、さらにフォークなどを置く位置もすべて頭に入っています。いまでは彼女がホールを中心、細い体で良く頑張ってくれています」と定着支援課の丸山直人さん。

「そんな彼女たちに、働きやすい職場を提供することが我々の仕事だと、お二人は話します。たとえば、スープを出したら伝票にスタンプを押し、どこまでお出ししているかを一目で確認できるようにするなど、わかりやすい仕組みづくりを工夫しています。」

して、持ち運ぶことができるように力を付けました。この腕立て伏せは、いまも続けています。吉野さんが入社して最初に行うのは、開店準備です。テーブルを拭いたあと、シロップ、シュガーなどをテーブルごとに決められた数だけセット。さらにスプーンなどは、布巾で丁寧に磨いていきます。

記念すべき第10回、 年代を超えて絆を深めてほしい

2月24日、埼玉県志木市のパルシティ志木で(社福)ヤマト自立センターの記念すべき「第10回卒業者の集い」を開催しました。スーツ姿も初々しい平成29年度卒業生13名を含めた75名の卒業生が出席。瀬戸理事長は「ひとつ仕事を覚えたら次の仕事へ。成長していくみなさんの姿を来年もここで見せてください」と挨拶しました。

新社会人としての 働く思いを報告

(社福)ヤマト自立センターでは、2年間で就労のための訓練を行い、企業に就労することで卒業になります。これまでの10年間で輩出してきた卒業生は160名(重複利用者は除く)です。

平成29年度卒業生13名は、瀬戸理事長から修了証書を受け取ったあと、それぞれの近況を伝えました。

最初は大変だったけどいまは毎日が楽しいと社員食堂で調理補助を行う山口里穂さん。DVDなどのレンタル返却などを担当する鈴木祥覚さんは、一歩ずつステップアップしていきたいと話します。4月から入る後輩の手下になりたいと気合いが入っているのは、老人ホームで生活支援スタッフとして活躍する小野かなめさん。武井若菜さんは、手漉き紙による販促物の製造を担当しています。事務で活躍する村上由香さんは、もっと別の仕事もできるようにしたいと意欲的です。老人ホームで清掃を担当する湊勇希さんは、最後まで頑張り通しますと元氣一杯。靴屋で店舗業務とバックヤードを担当す

る川上翔さんは、外国人のお客様が多くて緊張しますが、少しは英語もわかるようになってきたと話します。清掃業務に励む最年長の佐治明さんは、65歳になりましたが1年でも長く仕事を続けていきたいと報告しました。

仕事はもちろんみなさんプライベートも充実しています。

喫茶業務に励む吉野美優さんの休日の楽しみは、ご両親と行くカラオケと映画です。薬局店舗の清掃を担当する温井勇太さんは、給料で趣味のゲームソフトを購入しました。老人ホームで利用者さんの生活支援を行う中村司さんは、新しく買った眼鏡が良く似合っています。守屋勇二さんの趣味は気の合う仲間と出かける温泉旅行。北海道への旅行も計画中です。

10年勤続する先輩たちを お手本に

続いて、みなさんの良い目標にしてほしいと勤続10年を超える5名の先輩たちを表彰しました。株式会社ヤオコーの上福岡店で働く福井生さんが代表として挨拶し「大変なときもあるかもしれませんが、1日でも長く働き続けていきたいと思います」と新社会人の卒業生にエールを贈りました。

その後、和やかな雰囲気懇談会へ。今年5月に(社福)ヤマト自立センターの業務執行理事に就任した高橋正浩氏は「卒業生たちが築いてきた絆を、みなさんと一緒により強く大きくしていきたいですね」と挨拶。卒業生は年代を超えて親交を深め、楽しいひとときを過ごしました。



瀬戸理事長から修了証書を受け取る卒業生たち 社会人として活躍する平成29年度卒業生13名(5名が欠席。全18名)



10年間勤務し続ける5名の卒業生を表彰。みんなでお祝いしました



「たくさん卒業生が参加してくれて本当にうれしい」と高橋業務執行理事



「みなさんの笑顔で周りを明るくしてください」と瀬戸理事長が挨拶



自転車のカゴに宣伝チラシを貼ってPRするあすなろ亭



朝にあすなろ亭を訪れ、楠元塾長と一緒に見学に参加した塾生



「盛り付け作業を4列から2列にして効率を上げましたが、清潔さを保つことも忘れずに」と衛生管理の徹底を念押しする楠元塾長



2月16・17日「第3回 楠元塾(第2期)」

盛り付け作業で弁当を4列から2列へ それだけで効率も動きも変わる

第3回楠元塾は、兵庫県尼崎市にある塾生施設(社福)尼崎あすなろ福祉会のあすなろ亭で開催しました。朝早く利用者さんたちが弁当の調理、盛り付けを行うため、楠元塾長は一早く訪れ、その様子をチェック。研修会で楠元塾長は、4列で行っていた弁当の盛り付けを2列にするようにアドバイスしました。これにより、ご飯やおかずの入れ物などを置くスペースを確保でき、動線も良くなります。さらに「服装を統一し、食器を拭くタオルはペーパータオルに変えること。衛生管理を徹底した上で、賃金向上なのか、それともゆっくりと仕事をするのが目的なのか、職員が目的を共有し進むことが大事」と伝えました。塾生たちの目を引いたのは、自転車カゴに取り付けた弁当の広告です。「前回、盛り付けの彩りが良くないと指摘を受け利用者さんもアイデアを出して改善。カラーコピーでレシピ、メニュー、チラシを作成しました。チラシは自転車で付けて宣伝しています」。

翌日は、塾生たちが現状を報告。楠元塾長は、報告書のメニュー写真や棚卸し表などをチェックしながら、一人ひとりに今後の改善点を示しました。



クリーニング作業で大切な畳み、検品などの流れをチェック。動線の問題点などを見直していきました



3月2・3日「第5回 新堂塾(第3期)」

効率だけでなく利用者さんを育てるためにも 自分の仕事、全体の流れがわかる環境に

第5回新堂塾は、クリーニングと農業、食品加工を行う群馬高崎市の塾生施設(社福)ゆずりは会の事業所エールへ。売上の柱はクリーニングで、現在の月額平均給料は3万700円。売上向上とともに利用者さん主導となるリーダー育成を課題にしています。現場を見学した塾生からは「ルールを示す掲示物が多すぎてどう動いて良いのかわかりにくい」といった指摘も。新堂塾長は「作業の流れが見えにくいですね。工程ごとの班長(職員)の真似をすることからリーダー育成をはじめると良いでしょう」と話しました。アドバイザーの菅野 敦教授は「利用者さんへのアプローチは環境づくりから。利用者さんは、なにをしているのかわからないまま仕事をしていくと疲れてやる気もなくなってしまいます。いま自分がどんな仕事をしているのか、全体の流れもわかりやすく見える化していくことが大事です」と伝えました。

翌日は、塾生がそれぞれの取り組み成果を発表。新堂塾長、菅野教授の講評と今回のエール見学で学んだことをもとに、次のステップへと各自でどのように改善していくか、新たな課題を持ち帰りました。



クリーニング作業の工程と利用者さんの仕事を視察



法人内の農作業を行っている事業所も見学しました

YWF TOPICS

第1回ヤマトグループ親交会、表彰者に ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞施設の逸品を

障がいのある社員とスポーツイベントを通して、社員のコミュニケーションをはかり、働きやすい環境をつくるために、第1回ヤマトグループ親交会が1月21日、参加者350名を集め、東京ドームシティで開かれました。内容はボウリング大会とスポーツフェスとしてポッチャの体験です。

ボウリング大会は障がいのある社員と混合チームを作り支社・フォーメーション代表の20チームが出場。ベストチーム賞に輝いたのは青森主管支店チームでした。

表彰チームには、ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者施設が製造する商品を提供、新得農場のさくらチーズセットや、はらから福祉会の牛タン、ひびき福祉会の点心セット、自然栽培パーティのお米をはじめとする、12施設の逸品を提供しました。



ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者施設がつくる商品を表彰12チームへ提供しました

カレンダー販売にご協力いただき、 ありがとうございました

今年も伊東屋さま(東京・銀座)からカレンダーのご寄付をいただきました。それを各支社・主管支店で販売し、売上の319,622円を(社福)ヤマト自立センターに寄付いたしました。伊東屋さま、ヤマトグループのみなさま、ご協力ありがとうございました。



北東京主管支店



高知主管支店



東東京主管支店

2月24日、パティシエの実演で商品開発を学ぶ 「第3回 お菓子分科会」

パティシエからお菓子作りの基本やオリジナルレシピを学ぶお菓子分科会を、亀井塾卒業生以外にも門戸を広げ第3回お菓子分科会特別講座として開催。テーマは「商品開発」です。参加した10名は、今後手がけていきたい新商品などをリクエストし、亀井塾長の施設・ハイワークひびきのパティシエが実演指導しました。

「私たちが20年かけて築き上げた有名お菓子屋さんには負けないレシピやノウハウを吸収し、利用者さんのために役立ててほしい」と亀井塾長が挨拶。久田パティシエが、商品開発の考え方について、本などにある基本レシピからどうアレンジしていくか、材料の選択と活用、焼き方のコツなどを披露しました。

ラングドシャ、ダクワーズ、多彩な味のクッキー、他にもカレーと一緒に提供するスコーンなど、参加者は自分が希望したお菓子作りにはとりわけ熱が入ります。一人ひとりがパティシエから丁寧に指導を受けることができ、プロの技とこれから施設の新しい顔となるかもしれない新商品のレシピを持ち帰ることができました。



新しい商品の試作に熱が入る塾生



自分たちが希望したお菓子を作ることができました

3月10・11日、塾生で念願のマルシェにも参加 「熊田塾特別研修会」

農業に特化し学んできた元熊田塾生たち。昨年9月の修了式以来の再会となる特別研修会を開きました。初日は、滋賀県の塾生施設(社福)八身福祉会へ。「在塾中は、ハウス移転などで水耕栽培の本格的に稼働する前でしたが、いまは設備も完成。多くの方のご協力を得て、やっと軌道に乗ってきました」と報告しました。他の卒業生も「地方紙に取り上げてもらい売上も伸びました」「売上2億円、給料5万円プロジェクトを進めています」「農業とは違う新規事業を開始して大忙しです」「農場長として売り場のリサーチを進めています」など近況を報告。熊田塾長は「みなさん2年間でいろいろな可能性の種をまき、それが実りはじめているのでうれしく思います」と伝えました。

翌日は、京都で開催された全国車いす駅伝競争大会の競技会場で開かれた農福連携マルシェに参加。「熊田塾をはじめたころから、みんなでマルシェをやろうと話してきましたが、ここでやっと実現できましたね。いつかは塾生の手で企画運営するマルシェも開きましょう」と熊田塾長は呼びかけました。



滋賀県の(社福)八身福祉会でホウレンソウ、水菜などの水耕栽培を見学



いつか私たちの手で企画運営するマルシェを

プーシキン美術館展 ——旅するフランス風景画



ビエール=オーギュスト・ルノワール《庭にて、ムーラン・ド・ラ・ギャレットの木陰》1876年 油彩・カンヴァス © The Pushkin State Museum of Fine Arts, Moscow.



クロード・モネ《草上の昼食》1866年 油彩・カンヴァス © The Pushkin State Museum of Fine Arts, Moscow.



ユベール・ロペール《水に囲まれた神殿》1780年代 油彩・カンヴァス © The Pushkin State Museum of Fine Arts, Moscow.

DATA

開催期間 ▶ 2018年4月14日(土)～7月8日(日)

休室日 ▶ 月曜日(ただし、4月30日は開室)

開催場所 ▶ 東京都美術館 企画展示室

アクセス ▶ ・JR上野駅「公園口」より徒歩7分

▶ 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅「7番出口」より徒歩10分

▶ 京成線京成上野駅より徒歩10分

開室時間 ▶ 9:30～17:30(金曜日は20:00まで)

※入室は開室の30分前まで

観覧料 ▶

	一般	大学・専門生	高校生	65歳以上
当日	1,600円	1,300円	800円	1,000円

※中学生以下は無料

※身体障害者手帳、愛の手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、

被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名までは無料)

※4月18日(水)、5月16日(水)、6月20日(水)はシルバーデーにより65歳以上の方は無料、当日は混雑が予想されます

※毎月第3土・翌日曜日は家族ふれあいの日とし、18歳未満の子

を同伴する保護者(都内在住、2名まで)は一般当日料金の半額

■ 珠玉のフランス絵画コレクション

珠玉のフランス絵画コレクションでその名を知られているモスクワのプーシキン美術館。本美術館展では描かれた時代と場所を軸にフランス近代風景画の流れを紹介します。同館所蔵の様々な情景を舞台にした風景画は、神話の物語や古代への憧憬、あるいは身近な自然や大都市パリの喧騒、果ては想像の世界に至るまで、その土地のにおいや太陽の煌めき、風にそよぐ木々や町のさざめきをも感じさせます。今回はそのうち17世紀から20世紀の風景画65点が来日します。

■ 初来日、モネの《草上の昼食》

なかでも、モネの《草上の昼食》は初来日です。これは印象派の誕生前夜、26歳になる若きモネが同時代の人物たちとみずみずしい自然の風景を見事に調和させた作品。この作品はサロン(官展)に出品する予定の同名大作(縦4メートル、横6メートル)の下絵とも見られますが、サインと年記があることから完成した作品であると考えられています。

ほかにも、ロラン、ブーシェ、コロエ、ルノワール、セザンヌ、ゴーガン、ルソーらの作品が集います。巨匠たちが愛した光と色彩が躍る美しい風景を巡る「旅」をお楽しみください。

本展の美術品取り扱いにヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社は協力しています。

※ いずれも証明できるものをご持参ください

主催 ▶ 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日、プーシキン美術館、ロシア連邦文化省

後援 ▶ 外務省、ロシア連邦大使館、

ロシア連邦交流庁(Rosstrudnichestvo)

協賛 ▶ 大日本印刷、トヨタ自動車、三井物産、パナソニック、みずほ銀行

協力 ▶ 日本航空

問い合わせ先 ▶ TEL: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

ホームページ: <http://pushkin2018.jp/>

巡回情報 ▶ 大阪会場(国立国際美術館)7月21日(土)～10月14日(日)

2018年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラムのお知らせ

全国4会場で開催します

福岡会場(エルガーホール)

7月13日(金) 10時～17時

テーマ: 「共に働き共に生きる」障がい者の働く場

福岡会場では、単に障がいだけでなくさまざまな事情を抱えた人たちが集う働く場について、講演や報告を元に深く掘り下げていきます。

東京会場(全社協・灘尾ホール)

7月27日(金) 10時～17時

テーマ: 生き方・暮らし方の向上を目指して

東京会場では、障がい者のさまざまな仕事の場面で、どのようにその人の思いや願いをかなえていくのか、能力開発やITによる支援について取り上げます。

札幌会場(ACU アキュ)

8月3日(金)・4日(土) 10時～17時

テーマ: 就労継続支援A型事業所の未来

札幌会場では、A型事業所の最新状況と「札幌市障がい者協働事業」の事例報告など、分科会と合わせて、全Aネットとともに2日間にわたって開催します。

※4日は全Aネット(就労継続支援A型事業所全国協議会)と共催のフォーラムになります

大阪会場(マイドームおおさか)

8月24日(金) 10時～17時

テーマ: 「食」で広がる障がい者の仕事づくり

大阪会場では、障がいのある人と「食」の仕事の関わりについて講師の講演に加えて、実際に事業所で調理した食品の大試食会も開催します。

お申し込みについて

参加対象: 福祉施設関係者、本人、ご家族のほか、障がい者の働く場づくりに関心のある方々

参加定員: 各会場200名

費用: 参加費無料・昼食500円(事前予約のみ)

参加登録方法: 詳しくはヤマト福祉財団のホームページをご覧ください

